

アラビノガラクトタンの肝細胞内動態と DDS担体としての可能性

田中哲郎, 藤島夕子, 濱野真弥, 岩瀬宏樹, 金尾義治

Drug Delivery System, 14(4), 315(1999)

Intracellular Disposition of Arabinogalactan as a Drug Carrier

Tetsuro Tanaka, Yuko Fujishima, Shinya Hamano,
Hiroki Iwase, and Yoshiharu Kaneo

抄録 初代培養肝実質細胞を用いてアラビノガラクトタンの細胞内動態を検討した。アラビノガラクトタンはアシアロ糖蛋白質受容体と結合し細胞内へ取り込まれることが明らかとなった。血清アルブミンとアラビノガラクトタンのハイブリッドも、肝実質細胞と高い親和性で結合し内在化を受けることが明らかになった。また、ポリリジンとの結合体にDNAを複合体化させることで、DNAの肝実質細胞への会合が著しく増加した。これらの知見は、アラビノガラクトタンが肝実質細胞へのDDS担体として機能することを示唆するものである。